

# 四半期報告書

(第20期第1四半期)

自 2024年1月1日

至 2024年3月31日

株式会社テラプローブ

神奈川県横浜市港北区新横浜二丁目7番17号

## 目 次

	頁
表紙	
第一部 企業情報	
第1 企業の概況	
1 主要な経営指標等の推移 .....	1
2 事業の内容 .....	1
第2 事業の状況	
1 事業等のリスク .....	2
2 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 .....	2
3 経営上の重要な契約等 .....	3
第3 提出会社の状況	
1 株式等の状況	
(1) 株式の総数等 .....	4
(2) 新株予約権等の状況 .....	4
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等 .....	4
(4) 発行済株式総数、資本金等の推移 .....	4
(5) 大株主の状況 .....	4
(6) 議決権の状況 .....	5
2 役員の状況 .....	5
第4 経理の状況 .....	6
1 四半期連結財務諸表	
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	7
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書 .....	9
2 その他 .....	14
第二部 提出会社の保証会社等の情報 .....	15

[四半期レビュー報告書]

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 2024年5月14日

**【四半期会計期間】** 第20期第1四半期(自 2024年1月1日 至 2024年3月31日)

**【会社名】** 株式会社テラプローブ

**【英訳名】** Tera Probe, Inc.

**【代表者の役職氏名】** 代表執行役社長 横山 毅

**【本店の所在の場所】** 神奈川県横浜市港北区新横浜二丁目7番17号

**【電話番号】** 045-476-5711

**【事務連絡者氏名】** 執行役CFO 地主 尚和

**【最寄りの連絡場所】** 神奈川県横浜市港北区新横浜二丁目7番17号

**【電話番号】** 045-476-5711

**【事務連絡者氏名】** 執行役CFO 地主 尚和

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第19期 第1四半期 連結累計期間	第20期 第1四半期 連結累計期間	第19期
会計期間	自 2023年1月1日 至 2023年3月31日	自 2024年1月1日 至 2024年3月31日	自 2023年1月1日 至 2023年12月31日
売上高 (千円)	8,245,997	8,949,365	35,403,590
経常利益 (千円)	1,695,131	1,714,246	7,411,117
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	1,137,775	921,510	4,094,673
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	2,175,882	2,385,771	8,484,456
純資産額 (千円)	43,891,340	50,391,128	49,006,331
総資産額 (千円)	72,910,097	70,144,893	69,438,560
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	125.07	101.30	450.11
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	41.7	49.1	49.1

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間において、当社グループでは、サーバー用CPU・GPU及び車載向けロジック製品は全体として堅調に推移したものの、一部顧客の在庫調整により、売上高は前四半期と比較して減少し、8,949百万円（前期第4四半期比4.4%減）となりました。

売上高の減少に伴い、利益も前四半期と比較して減少し、営業利益は1,697百万円（前期第4四半期比13.6%減）、経常利益は1,714百万円（前期第4四半期比6.7%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は921百万円（前期第4四半期比22.8%減）となりました。

なお、当第1四半期において、法人税等376百万円、非支配株主に帰属する四半期純利益703百万円を計上しております。

前年同期との比較では、5G基地局向けロジック製品の一時的な需要増加の影響がなくなり受託量が減少したものの、サーバー用CPU・GPUや車載向けロジック製品は堅調に推移したことから、売上高は8.5%増加しました。

一方、減価償却費や人件費などの費用も前年同期と比較して増加しました。なお、為替レートが円安に推移したことによる影響を、売上高、費用ともに含んでおります。

これらの結果、営業利益は、前年同期比0.4%増加、経常利益は、同1.1%増加となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益については、前年同期に計上していた固定資産売却益530百万円の影響がなくなったため、前年同期比19.0%減少しました。

当社グループの当第1四半期連結累計期間における売上高の製品別内訳は、以下のとおりです。

(単位：百万円)

	メモリ製品	ロジック製品	合計
当第1四半期連結累計期間	727	8,222	8,949
(参考) 前期第1四半期連結累計期間	585	7,660	8,245
(参考) 前期第4四半期連結会計期間	838	8,518	9,357

#### (2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末における総資産は70,144百万円となり、前連結会計年度末比706百万円の増加となりました。これは主に、売掛金及び契約資産が259百万円、有形固定資産が1,403百万円それぞれ増加した一方で、現金及び預金が1,071百万円減少したことによるものです。

負債は19,753百万円となり、前連結会計年度末比678百万円の減少となりました。これは主に、長期借入金（1年以内返済予定を含む）が2,696百万円減少した一方で、未払金が1,864百万円増加したことによるものです。

純資産は50,391百万円となり、前連結会計年度末比1,384百万円の増加となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益を921百万円計上したものの剰余金の配当1,000百万円を実施したこと等により利益剰余金が79百万円減少した一方で、為替換算調整勘定が387百万円、非支配株主持分が1,075百万円それぞれ増加したことによるものです。

(3) 経営方針、経営環境及び対処すべき課題等

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営環境及び対処すべき課題等について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

なお、当社グループにおける研究開発活動は、テスト受託業務に関連した事項が中心であり、事業活動に密接に関わる内容であるため、これらの研究開発に係る費用は売上原価として処理しております。

3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### ① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	30,000,000
計	30,000,000

###### ② 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (2024年3月31日)	提出日現在発行数(株) (2024年5月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	9,282,500	9,282,500	東京証券取引所 スタンダード市場	完全議決権株式であり、 権利内容に何ら制限の 無い当社の標準となる 株式で、単元株式数は 100株であります。
計	9,282,500	9,282,500	—	—

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### ① 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### ② 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高(千円)
2024年1月1日～ 2024年3月31日	—	9,282,500	—	11,823,312	—	7,611,322

##### (5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

## (6) 【議決権の状況】

## ① 【発行済株式】

2024年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 185,400	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 9,091,200	90,912	権利内容に何ら制限の無い当社の標準となる株式であります。
単元未満株式	普通株式 5,900	—	—
発行済株式総数	9,282,500	—	—
総株主の議決権	—	90,912	—

(注)「単元未満株式」の欄には、当社所有の自己株式が次のとおり含まれております。  
自己株式 12株

## ② 【自己株式等】

2024年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数(株)	他人名義 所有株式数(株)	所有株式数 の合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社テラプローブ	神奈川県横浜市港北 区新横浜 2-7-17	185,400	—	185,400	1.99
計	—	185,400	—	185,400	1.99

(注)発行済株式総数に対する所有株式数の割合は小数点以下第3位を切り捨てて記載しております。

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。



## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(2024年1月1日から2024年3月31日まで)及び第1四半期連結累計期間(2024年1月1日から2024年3月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、RSM清和監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	11,796,001	10,724,770
売掛金及び契約資産	9,803,202	10,062,431
原材料及び貯蔵品	348,282	468,074
未収入金	341,705	416,614
リース債権	819,888	913,989
その他	385,038	217,960
流動資産合計	23,494,119	22,803,841
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	10,982,543	11,021,166
機械装置及び運搬具（純額）	31,359,352	30,919,470
その他（純額）	3,185,479	4,990,439
有形固定資産合計	45,527,375	46,931,076
無形固定資産	211,776	205,406
投資その他の資産	205,289	204,570
固定資産合計	45,944,441	47,341,052
資産合計	69,438,560	70,144,893

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	538,522	563,040
短期借入金	300,000	300,000
1年内返済予定の長期借入金	570,000	570,000
未払金	453,484	2,317,906
未払法人税等	1,191,281	1,204,855
契約負債	9,122	8,137
賞与引当金	1,319,548	1,527,481
役員賞与引当金	59,563	16,115
受注損失引当金	5,516	2,354
修繕引当金	32,131	39,178
その他	1,725,913	1,573,916
流動負債合計	6,205,083	8,122,987
固定負債		
契約負債	21,008	19,021
長期借入金	13,260,986	10,564,462
退職給付に係る負債	226,763	227,349
資産除去債務	10,650	10,671
繰延税金負債	684,327	782,945
修繕引当金	1,930	5,027
その他	21,478	21,298
固定負債合計	14,227,145	11,630,777
負債合計	20,432,229	19,753,765
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	11,823,312	11,823,312
資本剰余金	7,611,322	7,611,322
利益剰余金	11,937,606	11,858,432
自己株式	△120,123	△120,412
株主資本合計	31,252,117	31,172,654
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	2,873,607	3,260,997
退職給付に係る調整累計額	△3,660	△2,761
その他の包括利益累計額合計	2,869,947	3,258,235
非支配株主持分	14,884,266	15,960,238
純資産合計	49,006,331	50,391,128
負債純資産合計	69,438,560	70,144,893

## (2) 【四半期連結損益及び包括利益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2023年1月1日 至2023年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自2024年1月1日 至2024年3月31日)
売上高	8,245,997	8,949,365
売上原価	5,975,774	6,611,111
売上総利益	2,270,223	2,338,254
販売費及び一般管理費	579,950	641,168
営業利益	1,690,273	1,697,085
営業外収益		
受取利息	8,470	1,007
為替差益	—	43,059
受取手数料	121,916	46,405
その他	7,771	20,456
営業外収益合計	138,158	110,928
営業外費用		
支払利息	66,177	40,758
休止固定資産減価償却費	7,377	23,385
損害賠償金	3,724	22,000
その他	56,019	7,623
営業外費用合計	133,300	93,766
経常利益	1,695,131	1,714,246
特別利益		
固定資産売却益	530,614	205,273
地方自治体助成金	—	82,627
特別利益合計	530,614	287,900
税金等調整前四半期純利益	2,225,746	2,002,147
法人税等	439,372	376,862
四半期純利益	1,786,373	1,625,284
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,137,775	921,510
非支配株主に帰属する四半期純利益	648,597	703,774
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	388,568	759,588
退職給付に係る調整額	940	898
その他の包括利益合計	389,509	760,486
四半期包括利益	2,175,882	2,385,771
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,336,886	1,309,798
非支配株主に係る四半期包括利益	838,996	1,075,972

## 【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純損益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によって計算しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年3月31日)
減価償却費	2,902,558千円	3,373,852千円

## (株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 2023年1月1日 至 2023年3月31日)

## (1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年2月10日 取締役会	普通株式	491,244	54.00	2022年12月31日	2023年3月24日	利益剰余金

(2) 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の  
 末日後となるもの  
 該当事項はありません。

(3) 株主資本の著しい変動  
 該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 2024年1月1日 至 2024年3月31日)

## (1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2024年2月6日 取締役会	普通株式	1,000,684	110.00	2023年12月31日	2024年3月29日	利益剰余金

(2) 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の  
 末日後となるもの  
 該当事項はありません。

(3) 株主資本の著しい変動  
 該当事項はありません。

## (セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

当社グループは単一セグメントであるため、記載を省略しております。

## (収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当社グループの主たる地域別、収益認識の時期別に分解した顧客との契約から生じる収益は以下のとおりであります。

前第1四半期連結累計期間（自 2023年1月1日 至 2023年3月31日）

## (1) 地域別の内訳

(単位：千円)

	半導体テスト事業
地域別	
日本	5,456,108
台湾	1,217,440
北米(注) 1	768,009
アジア(注) 1	740,737
ヨーロッパ(注) 1	47,285
顧客との契約から生じる収益	8,229,581
その他の収益(注) 2	16,416
外部顧客への売上高	8,245,997

(注) 1. 各区分に属する国又は地域の内訳は次のとおりであります。

北米・・・・・・アメリカ

アジア・・・・・・主にイスラエル、韓国、中国

ヨーロッパ・・・・ノルウェー

2. その他の収益は、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号 2007年3月30日)等に基づく収入等です。

## (2) 収益認識の時期

(単位：千円)

	半導体テスト事業
収益認識の時期	
一時点で移転される財又はサービス	—
一定の期間にわたり移転される財又はサービス	8,229,581
顧客との契約から生じる収益	8,229,581
その他の収益(注)	16,416
外部顧客への売上高	8,245,997

(注) その他の収益は、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号 2007年3月30日)等に基づく収入等です。

当第1四半期連結累計期間（自 2024年1月1日 至 2024年3月31日）

（1）地域別の内訳

（単位：千円）

	半導体テスト事業
地域別	
日本	5,588,069
台湾	1,277,338
北米（注）1	1,185,606
アジア（注）1	815,253
ヨーロッパ（注）1	35,548
顧客との契約から生じる収益	8,901,816
その他の収益（注）2	47,548
外部顧客への売上高	8,949,365

（注）1. 各区分に属する国又は地域の内訳は次のとおりであります。

北米・・・・・・・・主にアメリカ

アジア・・・・・・・・主にイスラエル、韓国、中国

ヨーロッパ・・・・ノルウェー

2. その他の収益は、「リース取引に関する会計基準」（企業会計基準第13号 2007年3月30日）等に基づく収入等です。

（2）収益認識の時期

（単位：千円）

	半導体テスト事業
収益認識の時期	
一時点で移転される財又はサービス	
一定の期間にわたり移転される財又はサービス	8,901,816
顧客との契約から生じる収益	8,901,816
その他の収益（注）	47,548
外部顧客への売上高	8,949,365

（注） その他の収益は、「リース取引に関する会計基準」（企業会計基準第13号 2007年3月30日）等に基づく収入等です。



## (1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年3月31日)
1株当たり四半期純利益	125円07銭	101円30銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	1,137,775	921,510
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	1,137,775	921,510
普通株式の期中平均株式数(千株)	9,097	9,097
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	—	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2 【その他】

## (剰余金の配当)

2024年2月6日開催の取締役会において、剰余金の配当を行なうことを次のとおり決議いたしました。

- |              |             |
|--------------|-------------|
| (1) 配当の原資    | 利益剰余金       |
| (2) 配当金の総額   | 1,000,684千円 |
| (3) 1株当たり配当額 | 110円        |
| (4) 基準日      | 2023年12月31日 |
| (5) 効力発生日    | 2024年3月29日  |

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2024年5月14日

株式会社テラプローブ  
取締役会 御中RSM清和監査法人  
東京事務所指定社員 公認会計士 金城 琢 磨  
業務執行社員指定社員 公認会計士 越 智 啓 介  
業務執行社員

## 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社テラプローブの2024年1月1日から2024年12月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(2024年1月1日から2024年3月31日まで)及び第1四半期連結累計期間(2024年1月1日から2024年3月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益及び包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社テラプローブ及び連結子会社の2024年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

## 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

## 四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における執行役及び取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。